

# SHOWA GAKUIN 昭和学院

昭和学院中学校・高等学校

〒272-0823 市川市東菅野2-17-1 TEL 047-323-4171-5

<http://www:showa-gkn.ed.jp/js> FAX 047-326-5310

昭和学院 広報

第20号

2015.12.22(火)

## 桜和祭 “百花繚乱～一人ひとりが美しく咲き誇る～”



ダンス部

「桜和祭」としてスタートをして、2年目となる昭和学院中学校・高等学校の文化祭が、9月26日(土)、27日(日)の2日間開催されました。昨年から始まった生徒によるポスター制作も、今年は2名の作品が選ばれ、それぞれがポスター、及びパンフレットの表紙になりました。

さて、今年の桜和祭のテーマは『百花繚乱～一人ひとりが美しく咲き誇る～』。生徒は一人ひとり個性があり、それぞれが異なった能力を持っています。生徒各自がそれぞれの場所で、その持っている力を大いに発揮をして欲しい、という願いが込められていました。その願い通りに各発表会場で一人ひとりの力がおおいに発揮され、明るく活気に満ちた生徒主体の昭和学院らしさを感じさせる文化祭となりました。昨年より中学生の協力で作成しているモニュメントは、今年は「平和」をテーマに中学校全生徒の協力によって作られた小さな折り鶴をもとに、大きな鶴が作られエントランスホールに飾られました。又、文化部では日頃の研究や活動の成果として充実した発表が見られました。メインアリーナでは吹奏楽部の心躍るような演奏やダンス部・バトン部などの明るく優雅な演技発表と、桜和祭の直前に行われた秋季国民体育大会で団体優勝を果たした新体操部の演技などが行われ多くの来観者を魅了しました。そして、中学SDR(昭和ディズニーリゾート)をテーマにした会場では、ゲームを楽しむ子供連れの来場者であふれていました。高校1年生ではお化け屋敷や宝探しなどクラスのアイデア満載の楽しい活気に満ちた企画となり、教室の前には列ができるほどでした。高校2年生は模擬店、縁日、フードコートを開店し、多彩なメニューは売り切れが出るほど大好評でした。後夜祭では、中・高全クラスから出された沢山の漢字が大きな扇を埋め尽くして生徒の思いを伝えていました。明るく、活気あふれた2年目の桜和祭も、沢山の生徒達が踊るディズニー・ユーロビートで今年も幕を閉じました。



▲ 作品を鑑賞する来場者の方々



# SHOWA GAKUIN

## 海外教育研修



▲ バンクーバー国際空港にて

2015年度 4月 18日、内部生・外部生を含めた第1回オリエンテーションを開催し、第32回海外教育研修の準備がスタートした。5月・6月は必要な書類を完成させ、英会話やスピーチ練習を行った。7月に入り期末考査後は、英会話の練習をしながらフェアウェルパーティーや渡航の準備と、生徒たちは忙しい思いをしながら出発の日を迎えた。



▲ ビクトリア市訪問(A班)

7月22日、予定通り、羽田空港から無事出発。約9時間のフライト後、バンクーバー国際空港に到着し、すぐに2班に分かれ、ファミリーの待つ教会へと向かった。

生徒たちは不安を抱く間もなく、到着約2時間後にはファミリーのもとに分かれ、ホームステイがスタートした。翌日より毎朝、カナダ国歌と日本国歌を歌い、午前中は英語の授業、午後は英語を活用し、スポーツや観光を通してのアクティビティーが実施された。生徒達の順応力は素晴らしい、活動を手伝ってくれる同世代のパディーともすぐに打ち解けた。また、緊張していた表情も1週間後には、楽しそうな表情へと一変していた。慣れない環境の中で、「自分の事は自分でする」というカナダのスタイルを身に付け、日々奮闘していた。特に帰宅後は英語ばかりで、日本語を使う事は無く、常に電子辞書を持ち歩き、必死にコミュニケーションをとっていた。

生徒たちはこのような経験を通して、「海外でも自分で何とか生活できる。」というたくましさを身につけていった。また、食生活や文化面においてもカナダの良さを体験し、日本の良さを再確認できたのではないだろうか。当初は両親や周囲に勧められ、参加した生徒も、「今度は更に英語を勉強し、もう一度カナダに来てみたい。」と言うほどに自信を持ったようである。グローバル化が叫ばれる中、活きた英語の勉強をするには、やはり、海外に出て、その環境に慣れることができ一番であることを実感した。生徒たちには、海外教育研修で得た貴重な体験を生かし、ぜひ自分の将来に役立ててもらいたいと思う。



▲ ウェルカムパーティー(B班)

## 合唱コンクール

11月12日(木)に合唱コンクールが開催された。中間考査が10月23日に終了し、それから約3週間、生徒たちは朝や放課後の時間を利用して練習に励んだ。2学期は学校行事が多いため、クラスの仲間との交流を深め、団結力を高めることができる。合唱コンクールに向け、選曲、パート分け、指揮者と伴奏者の選出から始まり、練習方法や練習日時をめぐっての話し合い、実際に練習に入ってからは、気持ちの温度差などでクラスメイトとぶつかったりする姿も見られた。



▲ 中学3年1組 「桜の下で」

しかし、時間の経過とともにどのクラスも練習に熱が入り、団結力の高まりを感じさせてくれた。

舞台では、緊張感漲るクラス、ゆったりと落ちていたクラス、歌うこと自体を素直に楽しむクラスと、それぞれのハーモニーが響き渡った。男女の人数比は各クラス異なるが、それが個性となり、どのクラスも練習の成果が存分に發揮できていたようである。歌詞やメロディに耳を傾けるとその世界に入り込めるような錯覚をおこしてくれる合唱もあり、生徒たちのレベルは年々高くなっているようだ。一所懸命な姿は、美しい歌声と見事に調和していた。

中学の優勝は1年生は1組。2年生は1組。3年生は1組。高校の優勝は2年B組。2位は1年H組。3位は1年A組と2年D組となった。

高校で優勝した2年B組の指揮者、伴奏者に感想を聞いてみたところ「テンポの取り方や男子の声の入り方に苦労した。パート練習を多くし、あまり合わせることをしなかったので不安だったが、本番でも練習と同じように歌うことができた。」「指揮を見ながら伴奏することの難しさを感じた。緊張していたけれど、失敗なく伴奏できて安心した。」と話してくれた。

合唱コンクールは、生徒たちの心に強く残る学校行事となっている。

# SHOWA GAKUIN

## 中2職場体験

キャリア教育の一環として、今年も中学2年生の職場体験学習が、11月26日(木)、27日(金)に行われた。これまでの流れを振り返ると、1年生の2学期に職業についてグループでの調べ学習を行い、3学期に社会人になった本校の卒業生から、職業に関する話を聞いた。2年生では各クラスでキャリア委員を決め、打ち合わせを重ねながら、「しっかりと働き、将来のために役立つ職場体験にしよう」という目標・目的を決め、しおりを作成するなど、準備を進めていった。事業所ごとのグループの中では、リーダーを中心として、20日(金)の事前訪問、そのための電話での問い合わせなど、物事を計画的に自分たちでこなしていく体験をした。この2日間の職場体験学習では、どの生徒も真剣なまなざしで仕事に取り組み、楽しくもあり充実し



▲ エンジンルームの点検（千葉スバル自動車）



▲ 豚の目の解剖（市川総合病院）

た2日間とすることが出来た。また、働くことの大変さ、やりがいなど学校では学ぶことの出来ない大きな学びを得ることも出来た。

職場体験学習の終わった現在も、引き続きキャリア委員を中心に、報告集や壁新聞作成の準備が進められている。事業所で生き生きと働く大人の姿や、働くことの喜び、厳しさがどのように表現されるか、見守っていきたい。



▲ 番組作成（J:COM）

## 芸術鑑賞会

10月7日(水)と10月8日(木)の午前・午後に、伊藤記念ホールで芸術鑑賞会が行われた。タイトルは「いのちでんでんこつなぐいのち」で、ダンスオペラカンパニー「未國」の手によるものだ。

作品は、東日本大震災直後に集められた被災者の証言をベースに創作された。ストーリーは、市役所に入庁したばかりの若者、大が東



▲ 「未國」のみなさん

日本大震災の後、避難所の世話係になったところから始まる。生徒の感想では、「命の大切さがわかった」「改めて震災の悲惨な状況がわかった」など考えさせられる鑑賞会となった。生徒は真剣に観賞し、自分なりの感性で受け止めていたようだ。

## 高2大学・学部説明会

10月27日、29日、30日、11月26日の放課後の時間において、東京理科大・法政大・中央大・明治大の計4大学における大学・学部説明会が高校2年生の希望者延べ206名で行われた。1学期に学部・学科説明会が行われたが、その時に参加できなかったMARCH以上の学校を呼んで、会議室にて各学校50分間ずつ説明会を実施した。興味関心のある学校を生徒が事前に選んで来ているので、真剣な眼差しで話を聞き、会終了後には個別相談などもしていた。3学期にはさらに希望する分野を1つに絞り模擬授業を体験する進路ガイダンスが計画されている。



▲ 法政大学の説明会の様子

## 弦 楽 部

創部から40年以上経つ弦楽部は、長い間校内での活動を主としてきた。しかし近年、入部する生徒の気風が変化してきており、より芸術&技術レベルの高い曲を練習して校外の人達にも聴いてもらう方向へとシフトチェンジしている。昨年からはコンペティションにも参加するようになり、今年は予選を抜けて10月25日、郡山市民文化センターでの「日本学校合奏コンクール」アンサンブル部門全国大会に出場した。担当楽器の学習歴4年目～14年目の中から18人で緊張しつつステージに臨み、銅賞を頂いた。現在は34人中、中学時の全国大会経験者が管弦打併せて8人いる一方で、初心者も10人ほどいる。次回は千葉県高文連のステージで、また来年1月には他

校とのジョイントコンサートで、初心者をフォローしながら全員で一体感のある表現ができるよう、活動中である。



# SHOWA GAKUIN

## 奨学会 文化教養部主催 第3回文化講演会



▲ 入場する尾木ママ

今年で3回目になる文化教養部主催の文化講演会が、11月28日(土)午前10時から本校メインアリーナを会場に開催された。今回お招きした講師は、テレビなどマスコミでおなじみの教育評論家、法政大学教職課程センター長・教授 尾木直樹氏である。実は、2年前も同じ尾木先生に講演を依頼し、盛況の中で終えることができた。終了後、尾木先生自ら「今度講演できるなら、是非生徒さんにも話をしたい。」という旨のお話を伺っていた。そこで尾木先生に問い合わせたところ、快く二つ返事で引き受けさせていただいた。

当日は天候にも恵まれ、多くの御父母を始め、来賓の方々も大勢いらっしゃって会場はほぼ満席の状態となった。そして、今までの講演会とは異なり今回は尾木先生の御希望に沿った形で、中学1年生から3年生まで参加しての講演会となった。

前回同様、尾木先生の入場方法は、御父母や生徒の間を縫って登壇するというサプライズ形式を取ったが、これが生徒にとってはテレビでお馴染みの尾木先生が自分たちの近くを通り握手までしていく

れるということで、最初からかなりの盛り上がりであった。講演の内容は、まずご自分のテレビ等のマスコミでお付き合いのある芸能の人となりを、面白おかしくいつもの独特の口調で話し、会場の笑いを誘っていた。しかし、そんな笑いの中でもその芸能人の良いところも必ず引き出して話してくれることに尾木先生の懐の深さ、洞察力を感じた。そして、時には生徒や父母にマイクを向けたり挙手を促したりと、活動的に講演を行った。その講演の概略だが、「先のことを考えて努力することも大切だが、それ以上に今をどれだけ頑張れるかが大切なことだ」「高校・大学に進学するにも、学習意欲・目的意識があるかないかで伸び代が違う。ただ知識を詰め込んだり丸暗記ではダメで、目的もなくそれで大学に合格した学生は必ずと言っていいほど伸びない」そして、保護者に対しては「子どもに對していく否定的な表現で接するのではなく、肯定的なプラス意向の表現で接すること。言い方一つで子どもは驚くほど変わる」など、自らの教育論を90分という講演時間をオーバーし、熱く語っていただいた。



▲ 熱く語る尾木直樹氏

## 千葉県私学振興大会

10月10日(土)の午後2時より幕張メッセ国際会議場において、第12回千葉県私学振興大会～私学教育を考える集い～が開催された。

当日は本校の奨学会役員の方々を始め県内私立学校の保護者や教職員など千四百人余りの方が参加し盛大に行われた。

千葉県私立中学高等学校協会副会長の森久人氏から開会の辞があり、その後主催者代表挨拶、保護者代表挨拶、そして千葉県知事の森田健作氏を始め県内の議員の方々の挨拶が行われた。最後に大会決議案を採決し閉会となった。途中、平成27年度全国高校近畿総体の優勝・準優勝選手として、本校からも新体操が紹介された。また、東京オリンピックちばジュニア特別強化指定選手として、水泳(シンクロ)塚本真由さん、新体操の横田葵子さん、女子バスケの赤穂ひまわりさん・中村美羽さんらが選出された。今後の大きな活躍に期待したい。



## バス研修旅行



▲ 川崎大師本堂前にて

11月17日(火) 保護者・教員等71名の参加により、バス2台に分かれてバス研修旅行がスタートした。本年度は、東京近郊での研修企画ということで、まずは川崎大師に到着。表参道の鉢切りの軽快な音が響きわたる中、境内へと向かった。参加者全員での集合写真撮影の後、弘法大師空海上人を御本尊とする本堂での参拝を行い、880余年の歴史を感じた。羽田エクセルホテル東急でのランチを済ませた後、最新技術の粋を集める日本航空羽田整備工場の見学へと向かった。通常、見ることのできないジャンボジェット旅客機の整備風景を間近で見学し、また整備工場のすぐ脇から飛び立つ飛行機の迫力に圧倒された。折しもトルコでの首脳会議から帰国された安倍総理大臣の政府専用機が目の前で着陸する様子も見ることができた。「温故知新」と言われるように、古くからの歴史を感じると共に日本の最先端技術に触れた有意義な研修旅行となった。

# SHOWA GAKUIN

## インターハイ「2015 君が創る 近畿総体」 新体操部準優勝

今年のインターハイは、「2015 君が創る 近畿総体」と銘打って、和歌山県他で7月28日から8月20日まで行なわれた。

本学院からは今大会も多くの選手が出場した。特に新体操部とバスケットボール部女子は大きな成果を挙げた。バスケ部女子が三位、新体操部は準優勝に輝いた。9月1日には入賞報告会が行なわれ、全校生徒が祝福の拍手で迎えるなか、賞状の伝達が行なわれた。

### **[Voice]** バスケットボール部 監督 鈴木親光

今年のインターハイは三位でした。準決勝では、岐阜県代表の岐阜女子高等学校と対戦しました。

残念ながら、高さとチーム力に差があり、惜しくも負けてしまいました。インターハイで自分たちの課題が多く見つかったので、ワインターカップまでに修正をして行きたいと考えています。



▲新体操部 インターハイでの演技

## 全国中学 平成27年度全国中学校総合体育大会

8月に北海道と東北各県で全国中学校体育大会が行なわれた。新体操部が団体第三位であったのが、本学院の主な成果だ。

### **[Voice]** 中学新体操部 監督 塩屋恵美子

中学3年生になかなかエンジンがかからず、苦労しましたが、本番での集中力は素晴らしかったです。最後は納得できる演技ができました



◀新体操部全中出場メンバー

(鎌田朱音・間野 遥・宮田侑莉亞・堀池美文・吉岡珠里)

## 第70回 国民体育大会（紀の国わかやま国体）他

9月26日から10月6日まで第70回 国民体育大会が和歌山県で開催された。本学院からは千葉県代表として、新体操部、水泳部、バスケットボール部女子、ハンドボール部男子・女子、ソフトテニス部男子の各部から選手が選出された。新体操部は団体準優勝、バスケ部女子はベスト四であった。水泳部は徳永美緒(1F)が400mメドレーリレー三位、400mフリーリレー七位に見事入賞した。

### **[Voice]** 新体操部 監督 塩屋恵美子

国体は、個人・団体の総合得点で順位を決定する。1日目の個人競技は堂園(フープ)・久保(ボール)・土井(クラブ)・吉越(リボン)が全員落下なく演技を繋ぎ、個人で四位につきました。

2日目の団体競技では、逆転優勝をかけて挑みました。会心の演技で会場も沸き、終わった瞬間にうれし涙が溢れました。団体では一位となりましたが、個人・団体の総合では準優勝となり、またもや全国制覇はならず、日本一になる難しさを知ることになりました。

11月に開催される全日本選手権で再度高校日本一に挑みます。



### **[Voice]** 水泳部 コーチ 関谷直樹

夏休み(8月末)より国体強化合宿を行い、千葉県チームとしての意識作りや水泳に集中できる環境は選手にとって良かったと思います。それが、今回の結果にも結び付きました。

### **[Voice]** バスケットボール部女子 監督 鈴木親光

本年度国体の千葉代表は昭和学院を主体として、他のチームからの補強選手を交えてのメンバー構成になりました。そのため、昭和の選手はプレイしづらい部分もあったと思いますが、よく頑張ったと思います。結果は準優勝でした。宿敵愛知県代表(桜花学園)とは準決勝で今年初めて公式戦で戦うことができました。良い経験になったと思います。インターハイ同様、自分たちの課題が見つかりました。ワインターカップまでに修正したいと思います。

○高校バスケットボール部女子は、12月23日から29日まで、東京体育館で行なわれるワインターカップ2015に出場する。

## 全日本新体操選手権大会

11月5日から8日まで岐阜市メモリアルセンターで、「全日本新体操選手権大会」が開催され、本学院チームも選抜された。結果、団体総合第四位、個人総合第十五位(堂園明香里 1H)であった。

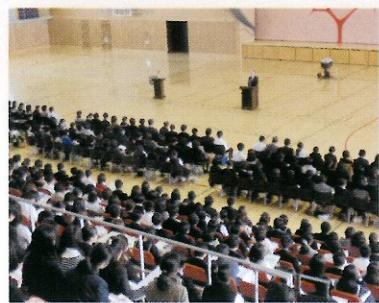
### **[Voice]**

### 新体操部 監督 塩屋恵美子

個人の堂園は1年生の出場ながら、四種目中三種目はノーミスでまとめることができました。四種目すべてをそろえる難しさを痛感しましたが、堂園らしく、大きな演技で手応えを感じる全日本でした。団体は、インターハイのクラブ、フープと、もう一種目リボンの演技を行なわなければなりませんでした。リボンの演技は本当に苦労しましたが、日々諦めず練習を重ねたことで団体総合第四位という素晴らしい結果を残すことができました。一位から三位まではすべて大学生でしたので、実質高校生のなかでは、最高の順位を獲得することができました。そして何より高校3年生がラストとなる集大成の試合で納得の演技ができたことに大変満足しています。

# SHOWA GAKUIN

## 中高等学校説明会



▲高校説明会の様子

加され、入試相談も満席で、熱心に相談する受験生の姿が印象的だった。

2学期の学校説明会は、9月12日の中学校に始まり12月まで中学・高校それぞれ5回ずつ実施した。中学は模擬受験体験と解説を取り入れ、好評であった。

中学・高校ともに来校者は前回を上回り、本校への関心の高さがうかがえた。

施設見学に大勢の方が参

## 中学校推薦入試

12月1日(火)朝、緊張した顔つきの小学6年生が本校の中学校受験のために集合した。塾の先生や保護者に励まされ、1人で試験室に向かう姿には、かわいらしさとりしさが入り混じっていた。第1希望者の入試のため、どの受験生も真剣だ。国語と算数の2科、または社会、理科を含めた4科と面接にチャレンジした。翌日10時からの合格発表では、すでにホームページ上の発表で結果を知っている受験生も、掲示板に掲載された自分の受験番号を見ると新たな感動を受け、合格通知書を受け取っていた。



## 平成28年度 入試要項

中学校	第1回入試		特進(特待生)入試	第2回一般入試	
募集人数	合計(男女)60名				
志望	併願		併願	併願	
出願期日	平成28年1月15日(金)～1月18日(月)		平成28年1月15日(金)～1月22日(金)	平成28年2月3日(水)～2月4日(木)	
インターネット	平成27年12月7日(月)～平成28年1月18日(月)		平成27年12月7日(月)～平成28年1月22日(金)	平成27年12月7日(月)～平成28年2月4日(木)	
入試日時	1月20日(水)午前8時30分		1月23日(土)午前8時30分	2月5日(金)午前8時30分	
入試科目	2科 国語・算数 各50分 4科 国語・算数 各50分 社会・理科 各30分		4科 国語・算数 各50分 社会・理科 各30分	2科 国語・算数 各50分 4科 国語・算数 各50分 社会・理科 各30分	
特待生制度	なし ※合格者は1月23日(土)の特進(特待生) 入試チャレンジ可		あり	なし	
合格発表	1月21日(木)		1月24日(日)	2月6日(土)	
	インターネット	窓口	インターネット	窓口	インターネット
入学手続	平成28年1月21日(木) ～1月27日(水)	平成28年1月21日(木) ～1月27日(水)	平成28年1月24日(日) ～1月27日(水)	平成28年1月25日(月) ～1月27日(水)	平成28年2月6日(土) ～2月9日(火)
					平成28年2月8日(月) ～2月9日(火)

高等学校	前期選抜試験						後期選抜試験	
募集人数	(男女)196名						(男女)20名	
窓口出願期日	平成28年1月5日(火)～1月9日(土)						平成28年1月25日(月)～1月29日(金)	
志望	第1志望			併願			第1志望	併願
入試	A推薦		C推薦	B推薦		特進(特待生)入試	一般入試	
特進(特待生) チャレンジ	なし	有り	なし	なし	有り	有り	なし	
入試日時	1月17日(日) 午前9時	特進(特待生) 入試に同じ	1月17日(日) 午前9時	1月17日(日)又は 1月18日(月) 両日とも午前9時	特進(特待生) 入試に同じ	1月18日(月) 午前9時	2月5日(金) 午前9時	
入試科目	面接(個人)		①一般常識試問 (40分) ②面接(個人)	①「英・数・国」 1科目(50分) 英語:リスニング テストあり ②面接(個人)		①「英・数・国」 1科目(40分) 英語:リスニング テストあり ②面接(個人)	①「英・数」又は「英・国」 1科目(50分) 英語:リスニング テストなし ②面接(個人)	①「英・数・国」 1科目(50分) 英語:リスニングテストあり ②面接(個人)
合格発表	1月18日(月) 午前10時		1月18日(月) 午前10時	1月18日(月)又は 1月19日(火) 両日とも午前10時		1月19日(火) 午前10時	2月6日(土)午前10時	
入学手続	平成28年1月18日(月)～1月22日(金)						平成28年2月8日(月)～2月12日(金)	

※試験について詳しくは要項をご覧下さい。